

産科医療補償制度 第 95 回原因分析委員会 議事要旨

日時：2020年10月7日（水） 16時00分～17時15分

場所：公益財団法人日本医療機能評価機構 会議室

出席者（委員）：石川浩史、茨聡、上塘正人、楠田聡、佐藤昌司、下屋浩一郎、
鈴木俊治、鈴木利廣、関沢明彦、高田昌代、豊田郁子、
前田津紀夫、宮澤潤、村越毅、吉田幸洋（敬称略）

議事概要：

1) 原因分析委員会における報告書の確認・承認状況等について

○2020年10月末時点で累計2,698件の原因分析報告書が承認されたことが報告された。また、2020年度上期は、コロナ禍の影響による部会開催の延期や事務局の勤務態勢の関係等から、報告書の作成に遅れが生じているが、10月から通常出勤に戻し、報告書の作成業務の立て直しを図っていること等も報告された。

○同一分娩機関での複数事案目の原因分析の結果、同じ診療行為等において医学的に厳しい評価が繰り返された場合に一層の改善を要請する「別紙（要望書）」対応について、2020年9月末時点での実施件数は97件であり、改善要望を行った項目としては「胎児心拍数陣痛図の判読と対応」が一番多かったこと等が報告された。また、コロナ禍の影響により開始が遅れていた日本産婦人科医会との連携について、今後「別紙（要望書）」を送付する際、日本産婦人科医会による支援を案内していくことが報告された。

2) 原因分析報告書全文版（マスキング版）の開示および原因分析のデータを活用した研究等の状況について

○原因分析報告書全文版（マスキング版）については、開示方法を変更した2015年11月以降2020年9月末までに9件の利用申請で延べ1,570事例の報告書を開示したこと、また、前回の原因分析委員会以降、新たな利用申請はないが、申請のための事前相談が数件あること等が報告された。

3) 原因分析報告書要約版の公表について

○前回の原因分析委員会での要約版の公表方針および記載内容の見直しについての審議を受けて、2020年7月に開催された第43回運営委員会において要約版の公表方針について審議され、要約版を全件一律に公表していく方針が全会一致で取り纏められたことが報告された、また、それを踏まえ、2020年8月以降に送付するすべての原因分析報告書について、要約版の公表を全件一律に実施することとなり、本制度ホームページに案内文書が掲載されたこと等が報告された。

4) その他

○2017年に原因分析委員会委員長名で日本周産期・新生児医学会へ提出した「切迫早産に子宮収縮抑制剤を投与した母体から出生した児に認める高カリウム血症および低血糖の発生調査および研究の要望について」を契機に、日本周産期・新生児医学会にて調査・分析がなされ、その結果が論文として取りまとめられ、医学誌に掲載されたことが報告された

以上